



十一面觀音像(佐賀・三岳寺) 湛康作 1294年

佐賀県立博物館・美術館報

SAGA PREFECTURAL MUSEUM · SAGA PREFECTURAL ARTMUSEUM

10 December 2008

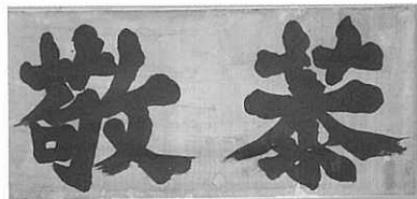
No.141



展覧会案内 テーマ展

「没後350年 よみがえる洪浩然の書」

平成20年11月20日(木)～12月21日(日)



「恭敬」額 洪浩然筆 個人蔵

洪浩然（こう・こうぜん／1582～1657）は1593（文禄2）年、豊臣秀吉による朝鮮出兵の際に鍋島直茂（佐賀藩祖／1537～1618）の率いる佐賀軍に捕らえられ、佐賀城下に連れて来られた。当時、12歳であった浩然は書にすぐれ、直茂・勝茂（初代佐賀藩主／1580～1657）父子に仕え、明暦3年（1657）に勝茂が死去したとき、76歳で殉死（追腹）をとげる。浩然には楷書体による独特の書が残され、佐賀での書作をはじめ、近年、京都市の頂法寺の寺号を手掛けたことなども知られるようになったが、その詳細は明らかでない。没後350年を記念して開催するこのテーマ展を前に、浩然の書について概要を確認しておきたい。

・作例

昭和48年、当館「郷土の先覚者書画展」で浩然の出品は《五言絶句六首屏風》6曲1双（館蔵）だけであった。その後すこしづつ作例が確認され、平成7年に県立名護屋城博物館でテーマ展「洪浩然とその遺墨」が開催、はじめて本格的に浩然の書が紹介された。同館『研究紀要』第2集（平成8年3月）の山口久範「洪浩然とその遺墨」展より】に出品14点が写真掲載されている。同展は浩然に対する興味を喚起するきっかけとなり、このたび浩然を祖とする洪家12代の洪悦郎氏から名護屋城博物館に洪家伝来資料88件が寄贈された。作例は5点、浩然が使用した筆や印章をはじめ系図や文書なども含まれる。浩然書の作例は文献掲

載なども含めると35点を数えるようになり、そのうち楷書体によるものが30点におよぶ。つまり楷書体に浩然書の特色があるといえよう。

・展開

浩然書で年記をともなう作例は少なく、つぎの6例でいずれも楷書体による。

- 1 与止日女神社石造鳥居柱銘 慶長13(1608)27歳
- 2 千栗八幡宮石造鳥居柱銘 慶長14(1609)28歳
- 3 以呂波字全 寛永10(1633)52歳
- 4 英彦山神宮銅造鳥居柱銘 寛永14(1637)56歳
- 5 德善院石造鳥居額・柱銘 慶安2(1649)68歳
- 6 忍（絶筆） 明暦3(1657)76歳

1、2の撰文は是琢明琳（～1620）、筆者は浩然と糸山貞幹「淀姫神社雑記」（明治40年 鍋島文庫）、同「千栗八幡雜記」（明治40年 同宮蔵本）に記される。1は勝茂、2は直茂の建立で、是琢は佐賀城下の臨済宗泰長院3世で文禄の役に従軍、祈祷などにたずさわった。1、2の銘は浩然書とすれば最初期の作例になる。4は勝茂、5は勝茂の子で白石鍋島家の祖直弘（1618～61）による建立。

これらを通観すると1、2の謹直で均質な書から、3、4で終筆のトメなどに強調がみられ、5、6ではさらに起筆のウチコミをはじめ送筆のオレ、終筆のハイ、ハネでも強調が観察される。

・「コブ浩然」

「書を能したる人、古今に多といへど、名たるは、直茂、勝茂公朝鮮より書家浩然〔今の洪氏祖、朝鮮李雪舟様也〕」。佐賀藩における諸芸道を論じた堤主礼「雨中廻登幾」（1812年序）の一節で、「書」の項の最初に浩然は記され、その書が「朝鮮李雪舟様」であると評される。李雪舟については不明だが、浩然書が異国的なものとみられていたことが知られる。また「楠浩然の称あり」、「其の書風蘊の如く節立つを以てなり」と久保大来『先覚者小伝』（肥前史談会／昭和4年11月）の浩然の項に記され、昭和初期にはすでに「コブ

浩然」の呼称があつたことが知られる。

・経歴

浩然の生没年は明暦3年(1657)、追腹直前に書かれたと伝えられる絶筆《忍》の署名「洪雲海浩然七十六歳書之」をもとにしている。書の作例をのぞくと同時代の史料は乏しく、元和元年(1620)10月3日付け《日遙書状》(本妙寺蔵)に浩然の名が記される程度である。日遙(1581~1659)は浩然同様、文禄2年の朝鮮出兵で加藤清正に捕らえられ、のちに加藤氏の菩提寺・熊本市の日蓮宗本妙寺の第3代住職となった人物で、同書状に列記される日本での友人6名のなかに「山陰(慶尚南道山淸郡)の洪雲海(浩然の号)」とある。日遙40歳、浩然39歳、彼らは「朝夕故国之事について話し合う」関係であったという。

・没後の史料

享保(1716~35)年中成立の『直茂公譜』には浩然が捕らえられたときの状況などが記される。つまり朝鮮出兵における文禄2年(1593)6月14日、日本の諸将6万余騎は釜山浦を打立、同20日に晋州城に向かい、10日以上におよぶ戦闘の後に晋州城は落城した。佐賀軍を率いた直茂は、この戦闘でとらえられた「歳の比十二、三と見へたる」浩然を哀れみ抱し、佐賀に連れ帰ったという。浩然は能書で、直茂は「深く御恩志を被加、佐嘉の城下に被召置、常に御前に被召出」とされる。

安永7年(1778)、古賀精里(1750~1817)撰『洪浩然伝』は捕らえられたときの様子がさらに詳しく記されている。つまり山間で犬のほえる声がしきりに聞こえ、直茂は人に探させる一人の童子が大筆を肩にかけて石の穴に隠れており、連れてくると直茂が「めずらしき者に思召」、中野左衛門(神右衛門)に預けて佐賀へ連れ帰ったとする。また勝茂は浩然が成長して後、「京の五山へ学問に被差越」、このとき藤津郡内に物成高百石と学問料として5人扶持を押領したこと、数年後に帰国し勝茂の側に住えたこと、老齢となり帰国を願い出、許可を得て出立したところ、勝茂が思い直し唐津藩との境の番所で呼び止められ引き返したこと、追腹に際して「忍の字を大文字に書き」、子の六郎兵衛に渡して遺訓としたことなどが記されている。そのころ洪家に残された史料や伝承などをもとに

記されたのであろうが、「直茂公譜」で直茂に獻じた漢詩が勝茂に獻したものとされる。

『洪浩然伝』は安永7年(1778)、29歳の精里が大阪遊学中に記したもので、のちに精里は佐賀藩校教授から幕府昌平坂学問所の儒者に抜擢される。精里は「浩然洪君遺烈闕」、「題浩然居士画像」も著している。浩然の子孫は2代安実(?)~1679)、3代安利(?)~1718)、4代祐実(1693~1720)、5代政方(1718~63)とつづき、6代安常(1742~1820)の妻幸(1756~1816)が精里の妹である。「洪浩然伝」の記された安永7年、幸は数え23歳にあたり、すでに6代安常と結婚していたのであろう。また安常の養子に精里の次男晋城(1781~1832)がむかえられる。前述の「雨中廻盛幾」(1812年序)の記述は、精里撰『洪浩然伝』などが契機となつたにちがいなく、没後100年以上経過して浩然の再評価がおこなわれたのであつた。

・課題

文禄年間(1592~96)から慶安年間(1648~52)にかけて出版された活字印本は古活字版とよばれ、その印刷技術はキリスト教にともなう西欧からと、秀吉の朝鮮出兵による朝鮮の銅活字版からの影響とされる。後者のうち徳川家康が閑室元信(1547~1612)に命じて出版された伏見版は、家康から押領したとされる木活字を使用して慶長4年(1599)刊『孔子家語』、『六韜』、『三略』が出版された。

元信は小城出身の禪僧で、足利学校9代庠主から家康の政治と学問の顧問的存在として重用された人物で、慶長5年(1600)冬、直茂、勝茂父子に請われて佐賀に歸り、開基となる三岳寺の寺領を決めるなど近しい関係が知られる。

浩然には『三略』写本が残されており、古活字版『三略』と無関係だろうか。また浩然の書の基本は母国での学習によるもので、たとえば署名の「浩」の字が顏真卿《大唐多宝塔感應碑》(752年)の「浩」の字に類似している点などから、古典の学習がうかがわれる。浩然の書は17世紀前半期における中国、朝鮮を視野に入れた書史のなかでどう位置づけられるのだろう。残された課題はおおい。

(学芸員 福井尚寿)

展覧会案内 特別展

「運慶流」

この展覧会では、運慶の父康慶、運慶、その子湛慶、孫の康円、そして九州に足跡をのこす湛康、康普、康俊ら運慶流の仏師たちの作品31件47点（国重文11件、府県重文12件）をご覧いただきます。

第1章《運慶と運慶之一流》

運慶と父康慶は、平家によって焼かれた興福寺や東大寺の復興で成功をおさめると、それまで隆盛を誇っていた院派や円派の仏師をしのぎ一気に表舞台に躍り出ました。天平以来の伝統に最新の技法を加味した彼らの新様式は、健康的で、みずみずしく、爽快としていて、またときには豪快で、重々しく、毅然としていて、新たな時代の到来にふさわしいものでした。運慶の長子湛慶、孫の康円らも堅実に地歩をかため、運慶流は鎌倉朝刻史の主流となります。



大日如来像（栃木・光得寺）運慶作 12世紀

第2章《蒙古襲来と運慶流－湛慶門流の活躍》

中世の日本をゆるがした蒙古襲来（元寇）は、神仏の戦いでもありました。日本全国で祈りが奉げられ、新たな仏像が必要とされました。最前線である九州の地に進出したのは運慶流の仏師たちでした。なかでも運慶四代の湛康とその門流の活躍はきわだっています。かつて運慶がつくり出した力強く迫力のある仏の姿が、戦災を退け安寧をもたらす祈りの対象として求められ、その後維持である彼らが起用されたのでしょうか。

もちろん、湛康らの活動は九州のみにとどまつたわ

けではなく、運慶流の主翼をになうにふさわしい足跡を畿内にしるし、名品をのこしています。



持国天像（佐賀・円通寺）湛康作 1294年

第3章《蒙古襲来から南北朝の内乱へ－康普と二人の康俊》

元弘3年（1333）、鎌倉幕府が滅亡するとともに、南北朝の内乱という新たな戦の幕が上がります。室町幕府は、戦没者の慰靈と平和を祈り諸国に安国寺を設置するとともに、五山を頂点に全国の禅寺を組織しようとする官寺制度の整備をすすめました。このことは、京の華やかな貴族的文化が各地へとつたわる契機となります。

仏師も世のながれと無縁ではありません。鎌倉時代の余韻をのこす重厚な仏像はいまだのこるもの、新時代の華美で定型的な作風が一世を風靡します。運慶流にも転機が訪れたのでしょう。運慶五代の康普や康俊（南都大仏師）と、運慶六代の康俊（東寺大仏師）の作風の隔絶は、ちょうどこの世代の間にとおされた時代の転換を映しているようにみえます。

釈迦三尊像（兵庫・慧日寺）
康俊（東寺大仏師）作 1365年頃

（学芸員 竹下正博）

展覧会報告

美術館常設特別展

「まだまだ探検!! 美術館」

美術館の夏の催しとして定着

「夏休みこどもミュージアム」の一環として、中学生を対象とした常設特別展「探検!! 美術館」シリーズも、今年で三回目をむかえた。今回は「まだまだ探検!! 美術館」と題し、当館所蔵の日本画、洋画、版画、彫刻、オブジェ等計80点を展示。7月11日～9月17日の会期中計9300人が訪れ、会場は連日、学校からの団体見学や家族連れでおおいに賑わっていた。

前二回の展示と同じく、今回も展示作品の一部についてその内容にかんする「クイズ」を設け、作品により親しんでもらうという手法を踏襲した。クイズは小学校低学年の子どもでも解くことができるごく簡単なものだが、子どもたちのみならず、今回は教育現場からの反響が大きく、小学校の先生方から「ぜひ授業を取り入れたい」との声があがり、後日、県内のある小学校でこのクイズ形式をもちいた鑑賞の授業が実現した。^{*}

当館が有する幅広い時代、ジャンル、作風の美術コレクションを多數紹介する「探検!! 美術館」シリーズを楽しみにしているというお客様もおられ、「よい企画ですね」「来年もまた来ます」といったお褒めのことばをいただくこともしばしばで、本シリーズが美術館の夏の催しとしてしっかりと定着していると実感した。県民の皆様からひろく支持をいただくことができた理由は、同シリーズの「ともに見つめ、考える」というスタイル、そして、美術の鑑賞の原点に立ち返り「作品により親しんでもらいたい」という、私たちのメッセージが伝わったからだと信じたい。

本シリーズを通して多くのお客様が、作品を「見つめ、読み解く」ことの面白さを発見、あるいは再認識されたとすれば、私たちにとってこれ以上の喜びはない。

豊かなコレクション、そして美術館のあり方を再考

今回の「まだまだ探検!! 美術館」の出品数は計80点。これらは前二回の出品作品（それぞれ計約120点ずつ）との重複はほとんどなく、改めて、当館の質、

量ともに充実したコレクションについてその存在の重み、ありがたみを感じた。しかしながら現在、当館も全国の他の美術館と同様、作品収集費の皆減、管理運営費の大幅な削減による各事業の縮小を余儀なくされている。「探検!! 美術館」シリーズも、ようやくひろく認知、浸透しつつあるにもかかわらず、開催のための予算は減少する一方であり、コレクションと私たち学芸員のアイディア（ポスター等のデザインも学芸員の手仕事でおこなっている）で何とか開催にこぎつけているのが現状である。

「探検!! 美術館」シリーズを訪れ、美術に触れる楽しさと喜びを知った子どもたちは、やがて成長し、自身の家族、あるいは生まれくるわが子にそのすばらしさを伝えてくれるだろう。美術を愛好するところをはぐくむこと。これには美術に触れる不断の機会と問い合わせが必要である。「未来をつくる」—それが美術館の存在意義であり、私たち学芸員の使命であると考えている。



* 12月5日、神埼市立千代田西部小学校で、松尾順子教諭による1年生を対象とした鑑賞の授業「もっと!! たんけんびじゅつかんへびじゅつかんがぎょうしつにやってきた~」がおこなわれ、ゲストティーチャーとして当館学芸員野中が参加しました。次回は授業の内容、模様について紹介します。

(学芸員 野中耕介)

レポート

夏休みこどもミュージアム2008

毎年実施している子ども向けのワークショップ「夏休みこどもミュージアム」を、今年は7月26日から8月9日にかけて開催しました。勾玉作りや竹細工、昆虫標本教室など、自分の手で何かをつくってみる講座や、絵を飾ってみたりする学芸員体験の講座など、バラエティーに富んだ内容となりました。

当初、8講座・定員160名程度で参加者を募集しましたが、合計で303件432名にのぼる応募がありました。そのため、急きょ各講座の定員を増やしたり、午後の部を設けたりして、できるだけたくさんの方に参加してもらえるようにしました。

博物館実習に来ていた大学生や、職場体験の中学生にも協力を得て、最終的に253名の小学生の参加を受け入れることができました。



昆虫標本教室



竹細工教室

参加者からは、「難しかつたけど楽しかった」「絵は大切に運ばないといけないと思った」「体験していろんなことがわかつてよかったです」などの感想が寄せられ、より楽しく利用できるように博物館・美術館への関心を高める、というワークショップの目的は達成されたようです。

(学芸員 本多美穂)



チャレンジ! こども学芸員 その②

こどもくらし学び
佐賀県立博物館・美術館

夏休みこどもミュージアム2008

参加者募集

7/26(土) 10:00-12:00	勾玉作りチャレンジ教室
7/27(日) 10:00-12:00	昆虫標本教室
7/28(月) 10:00-12:00	竹細工教室
7/29(火) 10:00-12:00	探検!! 博物館(午前の部)
7/30(水) 10:00-12:00	探検!! 博物館(午後の部)
7/31(木) 10:00-12:00	竹細工教室
8/1(金) 10:00-12:00	昆虫標本教室
8/2(土) 10:00-12:00	チャレンジ! こども学芸員 その①
8/3(日) 10:00-12:00	チャレンジ! こども学芸員 その②
8/4(月) 10:00-12:00	土笛をつくろう(午前の部)
8/5(火) 10:00-12:00	土笛をつくろう(午後の部)
8/6(水)	
8/7(木)	
8/8(金)	
8/9(土)	

お問い合わせ
佐賀県立博物館・美術館
〒840-0045 佐賀市大和町大字大和
TEL 0952-25-7006
FAX 0952-25-7006

開館時間
平日 9時～17時
土曜 9時～17時
休館日
毎週月曜日
8月11日(火)
8月18日(火)
8月25日(火)
9月1日(火)
9月8日(火)
9月15日(火)
9月22日(火)
9月29日(火)
10月6日(火)
10月13日(火)
10月20日(火)
10月27日(火)
11月3日(火)
11月10日(火)
11月17日(火)
11月24日(火)
12月1日(火)
12月8日(火)
12月15日(火)
12月22日(火)
12月29日(火)
1月5日(火)
1月12日(火)
1月19日(火)
1月26日(火)
1月31日(火)
2月7日(火)
2月14日(火)
2月21日(火)
2月28日(火)
3月6日(火)
3月13日(火)
3月20日(火)
3月27日(火)
4月3日(火)
4月10日(火)
4月17日(火)
4月24日(火)
4月31日(火)
5月8日(火)
5月15日(火)
5月22日(火)
5月29日(火)
6月5日(火)
6月12日(火)
6月19日(火)
6月26日(火)
7月3日(火)
7月10日(火)
7月17日(火)
7月24日(火)
7月31日(火)
8月7日(火)
8月14日(火)
8月21日(火)
8月28日(火)
9月4日(火)
9月11日(火)
9月18日(火)
9月25日(火)
10月2日(火)
10月9日(火)
10月16日(火)
10月23日(火)
10月30日(火)
11月6日(火)
11月13日(火)
11月20日(火)
11月27日(火)
12月4日(火)
12月11日(火)
12月18日(火)
12月25日(火)
12月31日(火)

実施日	講 座 名	参加人数
7/26(土)	勾玉作りチャレンジ教室	35
7/28(月)	探検!! 博物館(午前の部) 〃(午後の部)	24 20
7/30(水)・31(木)	竹細工教室	20
8/1(金)	昆虫標本教室	24
8/5(火)	チャレンジ! こども学芸員 その①	25
8/6(水)	“しりよう”と“さくひん”をさがそう	26
8/7(木)	チャレンジ! こども学芸員 その②	15
8/9(土)	土笛をつくろう(午前の部) 〃(午後の部)	35 29
	《総計》	253

レポート

博物館実習

平成20年度の「博物館実習」には、10大学から16名の受講申込みがありました。実習生の受け入れ条件は原則として県内出身者（県内の大学に在籍している学生を含む）であることです。受講者の大半は県内の高等学校を卒業した県内出身者でした。

実習生

福岡女学院大学	1名（女）
西南学院大学	3名（女2、男1）
放送大学	1名（男）
東亜大学	1名（男）
広島大学	1名（女）
筑紫女子学園大学	1名（女）
佐賀大学	5名（女4、男1）
熊本大学	1名（男）
京都女子大学	1名（女）
多摩美術大学	1名（女）

実習日程

- 7月28日（月）
 - 開講式、講話（吉永）
 - 「近現代美術」分野実習（野中）
- 7月29日（火）
 - 「考古」分野実習（森田）
 - 館の運営について（総務課）
- 7月30日（水）
 - 「工芸」分野実習（宮原）
 - 竹細工教室の補助（藤田）
- 7月31日（木）
 - 「自然史」分野実習（矢川）
 - 竹細工教室の補助（藤田）
- 8月1日（金）
 - 昆虫標本教室の補助（矢川）
- 8月4日（月）
 - テーマ展示撤収・展示作業（矢川）
- 8月5日（火）
 - 「歴史」分野実習（本多）

「民俗」分野実習（藤田）

8月6日（水）

「中世美術」分野実習（竹下）

スタンブラーの補助（福井）

8月7日（木）

館外実習発表資料作成

館外実習発表

8月8日（金）

館外実習発表

閉講式

館外実習

8月2日（土）～3日（日）の期間に各自他の博物館施設を見学していただきました。そのレポートとともに「館外実習発表（1人20分程度）」を行ないました。



アラカシの苗を育てる実習

今回の実習内容は、各分野に関する実習と夏休み子どもミュージアムの補助とに分けることができます。実習生の「実習ノート」には、「子どもと接することが新鮮であった」こと、「博物館・美術館の仕事は“物”と同時に“人”と接することが大きな比重を占める」といった感想が数多く書いてありました。

実習生にとって実りのある実習になったようです。

（学芸員 藤田務）

レポート

あらかしコンサートを開催しました —博物館の森の小さな音楽会—

県立博物館・美術館は、佐賀城公園の水と緑に囲まれた静かで快適な環境の中にあります。このすぐれた環境を活かし、県民の皆さまに音楽を楽しみながら博物館・美術館をもっと身近に親しんでもらえるよう、絵文アラカンシが育つ屋外展示場で県内演奏家による「あらかしコンサート」（ミニ・コンサート）を5月9日（金）と7月11日（金）、10月24日（金）と開催しました。

このあらかしコンサートでは、誰にでも親しみやすい楽器と曲目を選び、春・夏・秋の夕方のひと時を素敵な音楽でゆっくりお過ごしいただきました。

■5月9日（金）18:30～19:30

演 奏：ヴァイオリン（荒牧 清香）

ピアノ（大津山 奈美）

コントラバス（谷口 正美）

曲 目：チャールダーシュ、象、子犬のワルツ、川の流れのように、ラ・クンバルシータ、見上げてごらん夜の星を、リベルタンゴ、ふるさとの四季メドレー（ふるさと～春の小川～鯉のぼり～茶摘～夏はきぬ）

来聴者数は約100名を数えました。



佐賀県立博物館・美術館報 第141号

平成20年12月10日

編集発行 佐賀県立博物館・美術館

〒840-0041 佐賀市城内1-15-23 ☎ 0952-24-3947 ☎ 0952-25-7006

ホームページアドレス http://www.pref.saga.lg.jp/at-contents/kanko_bunka/k_shisetsu/hakubutsukan/index.html

E-mail hakubutsukan@pref.saga.lg.jp

印 刷 株式会社 三光

■7月11日（金）18:30～19:30

演 奏：Fug a（楓雅）

ヴァイオリン TSUBAKI

ピオラ Sacra

ピアノ Ayame

曲 目：エルガー「愛のあいさつ」、楓雅編「城の夏メドレー」、ジョプリン「メイプルリーフラグ」、ショパン「ノクターン」、TSUBAKI「紺碧（あお）の洗礼」、野中闇明編「碧空」、楓雅編「アメリカングレイス」、ニノ・ロタ「ゴッドファーザー愛のテーマ」、マンシーニ「ムーニーリバー」、葉加瀬太郎「情熱大陸」

来聴者数約130名を数えました。

■10月24日（金）18:30～19:30

演 奏：フルート（中藤美奈子）

ピアノ（濱手美貴子）

マリンバ（香椎 愛子）

曲 目：秋のメドレー、リベルタンゴ、くるみ割り人形より・小序曲・行進曲・金平糖の踊り・トルペーク（ロシアの踊り）・中国の踊り・花のワルツ

来聴者数約150名を数えました

(副館長 吉永陽三)